

進捗状況の概要

1. 岡山大学での IB 入試取組状況

岡山大学は、学内の全 11 学部と 1 コース (MP コース) において、平成 27 年 4 月入学者から IB ディプロマ (DP) 資格修得者を受け入れる IB 入試を開始した。また、MP コースでは、平成 25 年度から 10 月入試を実施している。

2. 大学教育再生加速プログラム (テーマⅢ入試改革; AP) 進捗状況

AP 事業の目的は、国内における国際バカロレア教育への理解を深めるとともに IB 入試の拡大を図り、IB 校増加計画 (200 校) に貢献し、IB 入試実施拠点大学としての役割を果たすことである。IB 入試の拡大は、入試制度の改革を推進し、さらには、高校教育の抜本的改革にもつながる。

1) 平成 27 年度広報活動・調査活動

事業の運営委員会などでの検討を踏まえて、IB 入試のさらなる展開を図るため、年度当初計画した国内外の IB 校に対する広報活動及び下記項目について調査を実施した。

- 1) IBDP の科目の講義内容、教育方法等と、国内の高校との学習内容比較
- 2) 課題論文、知の理論、創造性・活動・奉仕の具体的な取り組み内容
- 3) 国内インターナショナル校や日本語を主に第二言語として教えている海外 IB 校における日本語学習状況
- 4) 英語のみで修学・卒業が可能な新たな学内の教育コースにおける IB 生の受入
- 5) IB 科目修了生 (IB certificate) の実態と大学入試への対応検討

2) IB 学習成果の評価 (アセスメント) と高校と大学の教育評価や入試制度改革への活用検討

IB は、学習成果の評価 (アセスメント) を指導や学修を支える要素として重要視し、多様な学びの成果を総合的に評価する体系が構築されている。一方、我が国の教育は、従来の知識・技能を教える教育から、自ら進んで考え、判断し、多様な人々と協働して問題を解決する資質や能力を育む教育に大きく転換しようとしている。このような新しい能力を育むために、多様な学習活動が高校や大学教育でも導入されつつあるが、学習の成果を適切に評価するための方策などについては検討段階にある。このため、IB の学習評価を高校と大学の教育評価に活用し、さらに高校での学修活動を客観的な尺度で評価し、入学者選抜に活用する可能性を検討した。

1) 国際バカロレア機構 (IBO) における評価システムの企画・運営の代表者 (Carolyn Adams, Chief Assessment Officer), 2) 学習能力とその評価について我が国を代表する研究者 (松下佳代 京都大学教授, 御手洗明佳 千葉大学研究員), 3) 高校の IB コースで長年教科指導と評価を実施している教員 (ウェンドフェルト延子 加藤学園暁秀) などを招いてシンポジウムを開催した (『国際バカロレアの「学びの評価」と高校・大学教育改革への活用』)。シンポジウムでは、県下の SGH における探求型学習の担当教員にも参加いただいて討論し、今後、多様な学習活動が本格的に導入される高等教育において、IB の達成度評価の方法や体系から何を学び何を取り入れられるか、高大教育を接続する大学入試改革に向けてどのように活用していけばよいかなどについて提言を受けた。

3) IB 入試を高校と大学の教育関係者に普及するための活動

オランダの IB 校から岡山大学に進学した学生に加えて、日本、フランス及びアメリカの IBDP を修了して日本の社会で活躍する 3 名を招いて、IB での体験や大学進学・就職後の状況を紹介して討論する座談会を開催した。IB 教育に関心のある高校や大学の教育関係者などの参集を得て、会場での発表と質疑応答などから IB 生の受入が大学や職業において果たしている役割を認識できた。

4) 岡山大学に入学した IB 生の調査

10 名の入学者について、岡山大学選択の理由、履修や学生生活の状況などを調査し、IB 生の受入拡大と IB 生の特徴を發展させ、リーダーシップを発揮できる教育環境の検討を行った。